

スエニヨ

版コスシネ

高新ニユ-ス No. 392
新復媛ニユ-ス No. 220

No. 557

39. 9. 18

特集

一、さあオリンピックだ

世界98カ国の若人がオリンピックの灯の下に集い競う世界の祭典、第十八回オリンピック東京大会は施設の準備も殆ど終り、来る十月十日を待つばかりとなった。奇跡の復興と云われた日本経済の高度成長、これを裏づけるような建築の粋を集めて成った各競技施設。悪名高き東京の交通地獄も高速道路、モノレールの開通で先づは大丈夫というところか。

このたくましいエネルギーの持主、東京大会の主催者はこのマンモス都市に生息する人達である。朝の通勤ラッシュの秘めたるヴァイタリティーであろう。

だが、このダイナミックな一面と反比例してオリンピックを前にして今、日本人の公徳心が取沙汰されている。

銀座をふらつく若い人達の間にはチュウインガムが大モテ、疲れを知らない彼らの口は物すごい勢いで動く、見る人の不快感など全々気にしない。そして所かまわずベツと吐き捨てる。後のことは存せぬとスカして通りすぎる。

かたや公園には立入禁止の立札を物ともせず二人仲良く無責任よろしく侵入、これよりもひどいのがキャッチボール。これでは芝生は緑を失うこと甚々しい。

夜になると酔っ払いの立小便がひどい、ここ上野のあるお米屋さんは、夜な夜な立小便におびやかされている。頭にきて品よく貼り紙を掲示した。オリンピックを機会に日本の恥部をとり払おうという苦心惨胆の傑作、とにかくオリンピックまでは立小便はしてくるなというもの。

この調子だから駅の公衆便所もひどい、池袋駅などは心ない女性の為に修理費一金二十万円也を使ったという、着捨て、はき捨ての大消費時代が生んだ悲劇とって一笑にふすことはできないものだ。

酔っ払い天国は終電車が舞台、煙草の吸ガラムポイポイと……、後の始末は誰がやるのか、自分の家ではできないことを公衆の場なら平気でやる。

これぞまさしく日本歴史の忘れ子、公徳心の欠如である。

このように海外のお客さんが多勢来る東京オリンピック。何とか、美しく明るい都市で、オリンピックを成功させようとする国土美化運動推進本部は新しく、美しいゴミ屑容器を都内全地域に設置、よろしくご協力の程を一生懸命。果てこの業一朝一夕でなるか否か、とにかく長い間忘れられてきたものだけに困難だろうが、このオリンピックを機に公徳心の姿勢を正す必要があるようだ。

こうしたなかで九月十五日オリンピック選手村が開村式。メキシコ馬術選手団ら賑やかな選手村になりそう。

さあ、いよいよスタートしましたオリンピック東京大会を美しく、明るく成功させましょう。

620 F

(製作) 中部日本新聞 東京中日新聞
(配給) 北陸中日新聞 東京中日新聞